



高梁市の公共交通

市内公共交通の概要

市内の公共交通機関には、

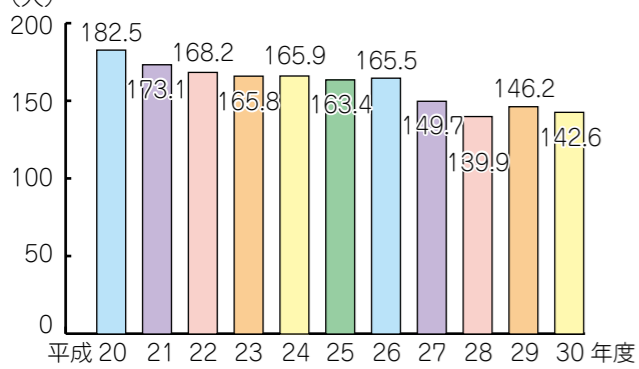
- ① 市内東側を南北に縦断する「R伯備線」
- ② 備北バスによる民間バス路線(13路線)
- ③ 市営の生活福祉バス路線(20路線)
- ④ 川上町・備中町の2地域と玉川町・松原町・落合町福地・成羽町下目名の4地区で運行する乗合タクシー

これまで、平成27年3月策定の「高梁市地域公共交通網形成計画(第1次計画)」および平成28年6月策定の「高梁市地域公共交通再編実施計画」に基づき、交通拠点を結ぶ路線の充実や公共交通空白地域の解消、乗合タクシーの拡充など利便性の向上を図ってきました。

公共交通利用者の減少

公共交通利用者は減少傾向にあります。将来人口推計では、市の人口は平成27年から10年間で17%減少すると推計されています。また、運転免許を持たない高齢者は、運転免許保有率の上昇に合わせて平成27年から10年間で半減すると推計され、高齢者の利用が多い生活福祉バスや乗合タクシーの利用者はさらに減少することが予想されています。

民間バス路線の1日の平均利用者数
(乗車密度×平均運行回数)

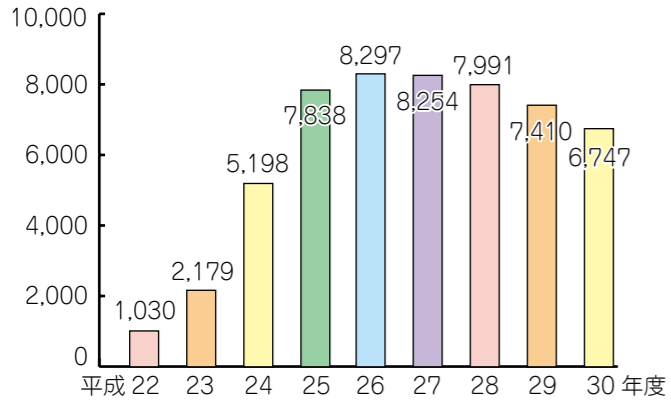


民間バス路線 13路線が市全体を広くカバーし、うち5路線が本市と他市町とを結んでいます。平成28年から路線の再編が行っていますが、利用者数は減少しています。

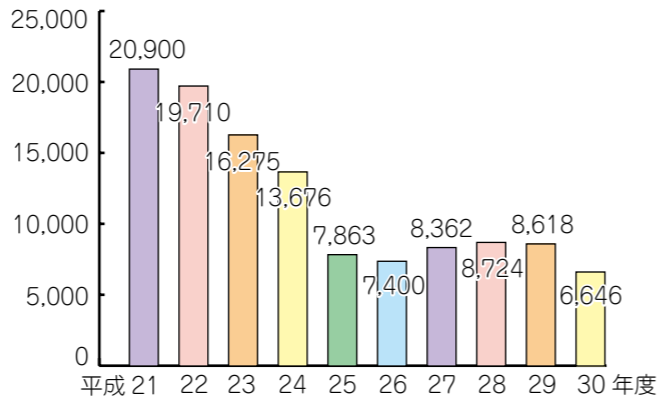
生活福祉バス 川上・備中地域および川面・巨瀬・中井地区で20路線を運行しています。平成23年に川上・備中地域が乗合タクシーを導入したことで利用者数が減少して以降は7400〜8700人程度で推移していましたが、平成30年度は大幅に減少しました。

乗合タクシー 川上・備中地域および玉川町・松原町・落合町福地・成羽町下目名の4地区で運行され、いずれも週2〜3日の曜日運行をしています。生活福祉バスの一部を乗合タクシーに切り替えた平成23年度から利用者数が増加していましたが、平成26年度をピークに減少傾向にあります。

乗合タクシーの年間利用者数



生活福祉バスの年間利用者数



	平成25年度	平成30年度
路線バス補助	1億1801万円	1億2421万円
生活福祉バス	3094万7千円	4147万4千円
乗合タクシー	1896万円	2090万1千円
スクールバス	4671万8千円	4828万2千円
遠距離通学費補助	1465万円	1000万4千円
高校生通学支援	762万2千円	843万1千円
高齢者外出支援	1074万円	145万円
合計	2億4764万7千円	2億5475万2千円

関連支出の抑制と削減

市の財政は、普通交付税が合併特例措置の終了に伴い大きく減少し、また、災害復旧などで財政調整基金の残高が合併以後最少額となったことで極めて厳しい状況です。人口減少に伴って利用者が減少している中、運行経費や通学支援補助金などで公共交通関連支出は増大しており、支出の抑制と削減が課題となっています。

しかしながら、人口減少や自動車保有率の上昇などにより、公共交通を利用する人は依然として減少傾向にあります。また、公共交通施策の関連支出額は年間で2億5000万円を超え、人口1人あたりでは8387円(平成30年度)となり、一定の見直し基準により、利用者が少ないバス路線や乗合タクシーの廃止を含めた段階的な再編を行いながら、公共交通関連経費の削減を進めていかなければならない状況となっています。

しかし、高齢者ドライバーの交通事故の発生率が増加し社会問題となっている中、運転免許の自主返納の促進も進めていかなければなりません。生活に密着した公共交通手段をどうやって維持していくかは、高梁市の課題とどまらず、全国的な公共交通の課題となっています。

問市民課(0254)